名古屋市歴史文化基本構想

私たちのまちの文化財
「知る」「伝える」「活かす」

概要版

わが国には、古代から受け継がれてきたさまざまな時代や種類の文化財が存在しています。しかし、少子高齢化といった社会構造や価値観の変化などによって、いま多くの文化財やそれを守ることで伝えられてきた伝統的な社会組織が失われつつあります。こうした状況の変化から、これからの文化財の保存活用について新たな方策を講じることが全国の自治体で喫緊の課題となってきています。

こうした環境の変化を背景に、平成19年に国の諮問機関である文化審議会は、地域の文化財をその周辺環境も含め社会全体で総合的に保存・活用していくために、地方公共団体が「歴史文化基本構想」を策定していくことの重要性を提言しました。

名古屋市でも、市内各地域にあるさまざまな文化財を、指定の有無や類型の違いに関わらず、文化財相互の関連や文化財の周辺環境も含めて総合的に把握し、地域の歴史的経過や特性を明らかにする取り組みを行いました。その結果をもとに、地域の文化財の保存活用の方針についてまとめ、文化財を未来に伝え活かしていくことをめざします。

この冊子ではその概要を紹介します。

平成29年3月
名古屋市教育委員会

1　名古屋市域の文化財の現状

1　名古屋市の指定文化財

名古屋市には、国、愛知県、名古屋市が指定した指定文化財が総数363件あります。指定文化財を数多く収蔵しているのは、熱田神宮、宝生院（大須観音）、徳川美術館、名古屋市博物館などです。

指定文化財の大部分は、名古屋城下と熱田に関わる文化財といえます。

2　名古屋市の文化財詳細調査

指定文化財だけで名古屋の文化財を語れるわけではありません。地域に残る無数の文化財がそれぞれ固有の歴史を持っています。

今回の文化財詳細調査では、過去に行ってきた分野別の調査成果をもとに、2,786件の文化財の現況を確認しました。この他に遺跡約950件、建造物約860件を把握しています。これら約4,600件の文化財の他にも、美術工芸品や文書・歴史資料なども、今後追加調査を実施することで文化財リストの完成をめざしていきます。

表１　市内の指定文化財等
（平成28年12月１日現在〇数字は国宝・特別史跡件数）　（単位：件）

区分		国指定	県指定	市指定	合計
有形文化財	絵画	17	17	11	45
	彫刻	5	9	5	19
	工芸	41 ①	40	9	90 ①
	書跡	51 ④	18	0	69 ④
	建造物	11	12	27	50
	考古資料	1	6	3	10
	歴史資料	0	4	4	8
無形文化財	芸能	0	0	2	2
	工芸技術	0	0	0	0
民俗文化財	有形	0	0	18	18
	無形	0	2	33	35
記念物	史跡	6 ①	0	5	11 ①
	名勝	1	0	1	2
	天然記念物	1	0	3	4
合計		134 ⑥	108	121	363
重要伝統的建造物群保存地区		1	0	0	1
選定保存技術		1	0	0	1
国登録文化財	建造物	86	0	0	86
	記念物	1	0	0	1

＊重要伝統的建造物保全地区は国による選定
＊徳川美術館の所蔵品（国宝９件、重要文化財60件）は東京都所在の扱い

3　名古屋市域の文化財のとらえ方

文化財詳細調査の成果から、市内全域に文化財が広く分布していることが確認できました。

市内の文化財を熱田神宮や名古屋城など、「名古屋を代表する文化財」と地域に残された石造物や屋根神などの「身近なまちの文化財」の２つの視点でとらえ、その上で、「名古屋を代表する文化財」を核としながらも、埋もれている「身近なまちの文化財」に焦点をあて名古屋の文化財の姿をとらえていきます。

そのうえで地域的・歴史的・空間的な関係性から意味づけた「関連文化財群」を抽出することにより、文化財の新たな価値を見いだすことをめざしています。

名古屋を代表する文化財

対象
- 尾張徳川家と武家文化関連の文化財
- 三英傑と徳川宗春
- 熱田神宮に残された文化財
- 有松の町並み
- 志段味古墳群

など

身近なまちの文化財

対象
- 地域に残された身近な文化財（石造物・屋根神など）
- 生活空間に残された歴史の断片（町割・石垣など）
- 普段無意識に接している歴史的景観（塚・路地など）

地域的・歴史的・空間的な関係性から「関連文化財群」を描き出すことにより文化財の新たな価値を見いだす。

2　名古屋の文化財の特徴

名古屋市域全体をとらえて、文化財のあり様を見た場合、最も大きな画期は名古屋城の築城と城下の形成、いわゆる「清須越し」です。巨大城郭とその城下町は、それまでの中心地、熱田から7㎞ほどの距離を隔てた台地上に築かれ、名古屋城と熱田、その間に広がる城下が現在につながる文化財の多くを生み出してきました。そうした経緯を踏まえて、時系列に沿った視点でまとめた名古屋の文化財の特徴が以下のものです。

特徴1　庄内川がはぐくむ古代・中世の文化

旧石器時代以来の人々が暮らしたのは、庄内川や年魚市潟に面した台地上でした。台地と低地の境界には大曲輪貝塚や雷貝塚が残されています。大陸から稲作を伝えた人々は、庄内川流域周辺に広がる広大な低地を開拓し稲を育てました。そうした人々が暮らした跡が西志賀遺跡や堀越町遺跡です。以後低地での生産力を背景として、集落や墳墓が台地や丘陵に残されます。川が物流の中心として機能した中世にいたるまで、低地での生産を背景に各地の産品・文化が集積していく姿が読みとれます。

白川公園遺跡出土装飾石皿

特徴2　いつの時代も熱田があってこその名古屋

熱田は伊勢湾と濃尾平野に連なる内水面交易の接点として、また伊勢湾漁撈の中心地として、古墳時代には尾張氏の拠点として、熱田大神をまつる熱田社が置かれた地でした。中世末には、東海道に接した立地と織田信長の庇護を背景に大きな賑わいを見せ、中世以来の熱田の祭礼は農村の祭礼と融合しながら東海地方の各地に影響を与えて、独特の祭礼文化を形成してきました。交通の要所であり、宗教都市であり、門前町であり、港湾都市であり何より文化の中心が熱田といえます。

熱田神宮

特徴3　名古屋城下町の誕生と名古屋文化の発展

現在の名古屋とその文化を形づくる上で最も大きな出来事は名古屋への遷府と城下町の誕生、いわゆる清須越しです。戦災による影響を差し引いても、現在まで受け継がれている文化・文化財等の大部分は清須越し以降に生み出されたものです。それまでの自然環境や水運・陸運の利によって自然発生的に発達した村落や中世都市と異なり、熱田の北側に計画的に配置された名古屋城下は都市の規模拡大とともに、多様な文化を受け入れ、生み出す舞台となっていきました。

焼失前の名古屋城と本丸御殿

特徴4　開かれるウォーターフロント　堀川開削・新田開発・干拓がもたらした発展

近代の名古屋は東海道線の整備や、木曽川の発電事業を背景に、工業都市として発達していきます。陶磁器などの伝統産業を足掛かりに、軽工業から重工業へと次第に転換がはかられていきます。その変化は木工などの手工業で蓄えられた技術力と、堀川をはじめとした水運に支えられていました。近世段階に新田開発により生み出された臨海部の広大な平坦地が名古屋が近代工業都市へとステップアップしていく舞台となっていきました。

名古屋港跳上橋

特徴5　モノづくりが繋ぐ文化

須恵器にはじまる陶磁器の技術はこの地域で磨かれ、名古屋から東海地方一円に広がっていきました。陶器の広がりは、すり鉢などを通して粉食文化を支え、調理の幅を広げていきます。全国に広がった「せともの」は、江戸時代にはすべて名古屋城下を経て全国へと届けられました。城下ではさまざまな焼物が焼かれ、城下に広がった茶の湯文化を支えたのもこの作陶文化であったといえます。また近代に発展した名古屋の陶磁器産業を物語る歴史的建造物が、東区周辺に残されています。

名古屋陶磁器会館

3　関連文化財群の抽出

文化財は、単体で成り立つものではなく、その成立や継承の過程で、その文化的な価値も他の要素と密接な関係を持ちながら成り立ってきたものです。文化財本来の価値を適切に保存するためには、文化財を単体としてとらえるだけではなく、地域的・歴史的・空間的関連性に基づき文化財を群としてとらえることが重要であり、この結果が文化財の理解を深めることにもつながります。

ここでは関連文化財群として、それらの関連性を有する一群の文化財を抽出しました。市域の広い本市の場合、「身近なまちの文化財」を拾い上げていくために空間的な要素も加味し、市域を６エリアに分け、１３の関連文化財群を抽出しました。関連文化財群は、今後、市民とともに内容を深めるとともに、新たに追加していくことに取り組んでいきます。

1 名古屋城下周辺エリア

○関連文化財群 1-1：名古屋三大祭とゆかりの文化財群

近世初頭の短期間に作られた名古屋城とその城下空間では、藩主から庶民に至るまで山車祭りに熱狂しました。大工・金工をはじめとした手工業の技術の向上と相まって、独特の名古屋型の山車が生み出され、からくりの技術を競いました。尾張藩の解体や戦災を乗り越え、現在に引き継がれた祭りにかける情熱が伝わる文化財群です。（関連文化財事例：名古屋型山車・名古屋東照宮等）

名古屋まつりに集まる山車

○関連文化財群 1-2：城下に残る焼物文化と繁栄の跡を語る文化財群

東海地方で初めて窯を使った焼物が焼成された地、名古屋。中世にいたるまで多くの焼物を産出してきました。近世を迎え、生産の中心が瀬戸に移った後にも国内各地に「せともの」を送り出す窓口として発展し、近代になると販路を海外にまで広げていきます。東区・中区を中心とした城下に残る焼物文化の繁栄の跡は、大陸からもたらされた、陶器の文化が連綿と引き継がれた東海地方の文化の縮図といえる文化財群です。（関連文化財事例：名古屋陶磁器会館・外堀の瀬戸電遺構等）

旧加藤商会ビル

○関連文化財群 1-3：名古屋城と城下町に残された見えない文化財群

城下の建造物は、太平洋戦争当時の空襲や相次ぐ開発でその大部分は失われてしまいました。しかし道路などの区画は残され、町名や通りの名前にその面影が残されています。その町割の中には、城下で活躍した数多くの人々の逸話も残されています。屋号を変え、ビルに建物を変えても現在まで続いている江戸時代以来の商家も数多くあります。こうした見えない歴史の断片も地域の貴重な文化財群としてとらえられます。（関連文化財事例：旧町名・町割・老舗店舗等）

城下絵図に見る町割

○関連文化財群 1-4：都市と水に関わる文化財群

名古屋の基本的な町割も、産業を支えてきた水運もすべて城下設計に盛り込まれていたものです。地形の起伏をも取り込んだ町割は、現代の都市の発展を支える。一方それ自体が 400 年前の知恵を伝える文化財といえます。水運の機能にとどまらず、市民に憩いを与えてきた堀川は、名古屋城下町に生命を吹き込みはぐくみ続けています。先人の知恵がしのばれる文化財群です。（関連文化財事例：堀川等）

堀川の荷揚げ場

○関連文化財群 1-5：

大衆文化の中心地、大須・前津とその周辺の文化財群

戦前の大須観音

城下のはずれに設置された南寺町。当初は城下の防衛の要として位置付けられていましたが、次第に広大な敷地で様々な文化的な活動が行われていきます。城下と熱田の間に位置する不二見には別荘や料亭が建てられ、城下の文化人のサロン的な役割を果たしました。名古屋の町人文化のふるさととともいえる文化財群です。（関連文化財事例：真福寺（大須）文庫・不二見焼）

岩塚の町並み

きねこさ祭

松重閘門

屋根神

有松大人形

名古屋港筏師一本乗り

光音寺無縫塔

神楽屋形

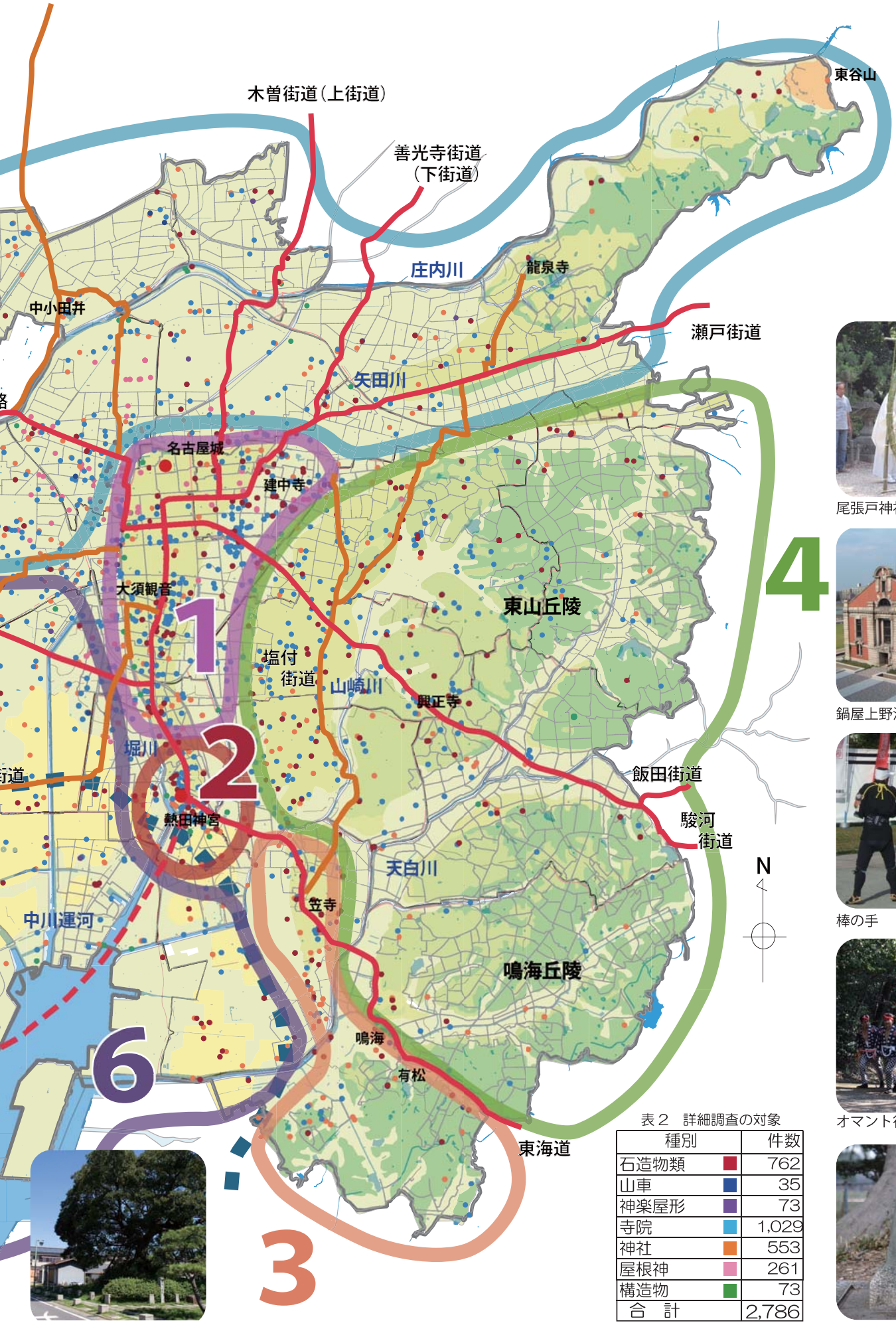
熱田祭巻藁

2 熱田周辺エリア

関連文化財群 2-1：熱田神宮と宮宿の文化財群

古代以来、名古屋の中心として栄えてきた熱田。その繁栄の痕跡は旧石器時代以降の各時代の遺跡が重層的に残されていることからわかります。古代の尾張の繁栄とつながる熱田神宮にはさまざまな祭礼行事が残されています。また陸・海両路の交差点である宮宿にはモノや情報が集まり、名古屋発展の原動力となってきました。名古屋の基層文化ともいえる文化財群です。（関連文化財事例：裁断橋擬宝珠等）

宮の渡し跡



笠寺一里塚

表２　詳細調査の対象

種別	件数
石造物類	762
山車	35
神楽屋形	73
寺院	1,029
神社	553
屋根神	261
構造物	73
合　計	2,786

尾張戸神社茅の輪神事

鍋屋上野浄水場

棒の手

オマント行事

千鳥塚

3 年魚市潟・鳴海潟周辺エリア

関連文化財群 3-1：東海道の町並みと祭礼文化に関する文化財群

古代から続く東海道周辺には、古代・中世以来の文化財が数多く残されています。一方で近世の東海道はそれまでの時代とは比べものにならないほど人や物が大きく動き、新しい文化もはぐくまれました。東海道周辺には古代以来の街道の面影が重層的に認められる文化財群が残されています。（関連文化財事例：笠寺一里塚・猩々）

鳴海の山車と猩々

関連文化財群 3-2：弥生から現代へ街中に残る戦いの跡を物語る文化財群

交通の要衝であり、また地形的な変化点でもある天白川河口部周辺には弥生時代、戦国時代、そして太平洋戦争当時の戦いの跡が数多く残されています。そうした戦乱・戦争の痕跡は、公園緑地・そして小学校などの施設の中にも残されています。平和な現在とは対照的な戦いの痕跡を物語る文化財群です。（関連文化財事例：大高城跡等）

大高城跡

4 東部丘陵と天白川・山崎川周辺エリア

関連文化財群 4-1：天白川流域・丘陵部の村々の暮らしを語る文化財群

名古屋市郊外となるこの地域は住宅地としての開発が進む一方、溜池など部分的に昔の面影が残されています。名古屋城下に近接した農村として城下の影響を受けながらも独特の文化が発達した地域です。自然と向き合いながら丘陵開発に取り組んだ人々の暮らし向きがうかがえる文化財群です。（関連文化財事例：棒の手等）

平針木遣り

関連文化財群 4-2：古代窯業生産に関連する文化財群

東山丘陵一帯は、東海窯業の出発点ともいえる地域です。数々の技術革新を経て全国各地へ優れた窯業製品を送り出していった舞台となるのがこの地域に残された窯跡群です。古代中世にかけて日本の最先端をリードしていた焼物文化を物語る文化財群です。（関連文化財事例：東山古窯跡群等）

古代の須恵器

5 庄内川・矢田川と周辺低地エリア

関連文化財群 5-1：庄内川を望む古墳とその周辺の文化財

畿内政権との関係の中で、大きな役割を果たしたことが記録類にも残されている古代尾張国。庄内川流域の地域には、尾張の中心勢力と目される「尾張氏」とその関連勢力の面影が伺える文化財群が残されています。（関連文化財事例：松ケ洞古墳群等）

志段味大塚古墳

関連文化財群 5-2：庄内川治水と中川運河開削に関わる文化財群

名古屋は、庄内川の水利を活かし耕地を拡大してきました。一方で低地の開発は水害に対するおそれと背中合わせの関係にありました。リスクをそれぞれの時代の最新技術によって制してきたのが名古屋の歴史ともいえます。水を活かし、水害を克服してきた歴史が反映した文化財群です。（関連文化財事例：庄内用水等）

庄内用水元杁樋

6 新田開発・干拓エリア

関連文化財群 6-1：新田開発のムラと暮らしを語る文化財群

低地の開発は築堤技術を高め、海に向かって陸地を広げる作業の繰り返しです。この堤防を築く作業により、以前の堤防は水田内をつなぐ土橋の役割を果たすことになり、人々や文化の往来の舞台になりました。数少ない高低差・斜面を活かし磁器の焼成が試みられたほか、観音堂を中心に神楽が生み出されるなど、各地から集まり新田開発に関わった人々が作り出した文化が反映された文化財群です。（関連文化財事例：番割街道等）

番割観音

4　私たちのまちの文化財「知る」「伝える」「活かす」

知る　地域の文化財を知る　新たな価値の発見・掘り起こし

- 地域の関連文化財群の周知
- 地域の文化財データベースの公開
- 地域の文化財の価値を高める調査研究

・地域の人に関連文化財群を知ってもらうために、講演会やウォーキングイベントを開催する。
・小中学生に地域の文化財について知ってもらうために、冊子やリーフレットを作成する。
・地域の文化財について調べることができるようにするために、ホームページで情報を発信する。
・地域の文化財の魅力を掘り起こすために、文化財の専門家による調査を行う。

伝える　地域の文化財を未来へ伝える

- 小中学生に向けた地域の文化財学習
- 地域の文化財の保存技術の継承
- 地域の文化財の担い手の育成

・小学生に地域の文化財の魅力を伝えるために「土曜学習プログラム」を行う。
・文化財の修理など保存技術を継承するための講習会を開催する。
・文化財の所有者が文化財の保存活用に関する技術や情報を共有するためのネットワークづくりを支援する

活かす　地域の文化財を活かす　学びから発信へ

- 関連文化財群を市民参加で検証・新設
- 関連文化財群を活かした地域の文化財の魅力発信
- 地域の文化財を体感する仕組みの構築

・地域の文化財の魅力を伝える「なごや学マイスター」などの活動を支援する。
・関連文化財群を学ぶパネル展やワークショップを行ったり、SNS を活用して情報を発信したりする。
・地域の文化財を体感するため、見学会や体験会を開催する。

文化財は地域の歴史を伝え、地域に誇りと愛着をもたらします。さまざまな担い手が文化財の調査を進め、保存活用につなげることは、暮らしの中に文化財を核とした人々のつながりを生み出すことになります。そのつながりは、共に学び、楽しみ、活動することで、さらに深まるでしょう。

地域のたからを守り、育む、魅力あるまちの実現をめざしていきます。

文化財講演会

土曜学習
プログラム

町並みガイド
ボランティア